

国

語

(

教育部
国語教育専攻

90分

200点

/

保健医療学部

60分

100点

/

上記以外の
全学部学科・専攻

60分

100点

)

注意事項

- (1) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- (2) 解答にはHBまたはBの黒鉛筆（シャープペンシルはHBまたはBの芯であれば使用可）を使用しなさい。
- (3) 受験する学部（専攻）によって解答すべき問題を指定しているので注意すること。

受験する学部（専攻）	解答すべき問題	解答方式	解答時間
教育学部国語教育専攻	一・二・三・四	マーク方式	九〇分
保健医療学部	一・二	マーク方式	六〇分
右記以外の全学部・学科・専攻	一・三	マーク方式	六〇分

- (4) 解答は、**解答用紙**の解答欄にマークしなさい。氏名・受験番号・解答科目を記入し、受験番号・解答科目をマークしてから解答を始めます。例えば、**10**と表示のある問いで「③」と解答する場合は、下の**（例）**のようにマークしなさい。
- (5) ③の表に指定する「**解答すべき問題**」以外の問題に解答しても、その解答は**採点の対象外**とします。
- (6) 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を高く挙げて監督者に知らせなさい。

(例)

解答番号	解	答	欄
10	①	②	③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

※ 問題に使用した文章の表記は、一部改めた場合がある。

国語（全学部の共通問題）

* ☐一・☐二・☐三の問題には、マーク式解答用紙を使って解答しなさい。

*ただし表紙(3)のとおり、受験する学部（専攻）によって解答すべき問題を指定しているので、注意すること。

一

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

全員解答

(※表紙(3)を確認すること)

「知識」は「知恵」に較^{くら}べるとどうも評判がよくありません。知識が身についていない状態を指す「借り物の知識」という表現はありますが、「借り物の知恵」というのは、少々変な感じがします。同様に、「知識を教える」とか「知識を獲得する」とは言いますが、「知恵を教える」とか「知恵を獲得する」とは通常言わないでしょう。

「知恵」が、ある人によるよく考えられた真性のものだというニュアンスを持っているのに対し、「知識」はそういうニュアンスを持っていないようです。辞書を引いてみると「知恵」は「物事の理を^aサトリ、適切に処理する能力」とあり、「知識」には「ある事項について知っていること。また、その内容」(広辞苑第7版)とあります。本人がサトリ^aって適切に処理できるようでなければ、「知恵」ではないのでしょうか。それに対して、「知識」は知っていればいいのであって、よく考えられた適切な処理を必ずしも伴わなくても構わないのです。

こうも言えるかもしれません。「知恵」は^bジューゼンなアウトプットを意識していますが、「知識」は必ずしもそうではありません。そして、「知識」はインプットの局面で手渡されたり受け取ったりすることができると思われています。しかし、「知恵」は受け渡しができるようなものではないと思われているようです。ですから、よく見かける^A「獲得した知識を知恵にしなければならない」といった表現^aがなされたりもするのだと思います。

ただ、「知恵」が大事だという人たちも、「知恵」の材料として「知識」が必要であることは共通して認めているように思います。ただ、教えられたり獲得した「知識」だけでは、あまりものの役に立つとは考えられていないようです。ですから、「獲得した知識を知恵にしなければならない」と言われることになるわけです。

「知識」と「知恵」との区別といったことに、どうしてこだわるのかと思われるでしょう。

斬新な考えや知的な発想や柔軟な思考結果を見せられると、人はそれをその人の柔軟で斬新な思考ができる頭脳の働きに^cギン^dすことがほとんどです。もちろん思考をするのに「知識」は必要と考えられています。したがって、このような考えを少々^dギガ^c的に図式化すれば次のようにならないでしょうか。

無味乾燥な「知識」 + 柔軟な思考 ↓ 「知恵」または妥当な解決策

すなわち、「知識」は無味乾燥なものでも構わない、それに柔軟な思考を働かせて「知恵」となし、意味のあるアイデアをアウトプットするのだという図式です。

しかし、ここまで極端に図式化すると、さすがになんだか奇妙な感じがしてこないでしょうか。

柔軟な思考が大事なことは言うまでもありません。柔軟な思考ができるにこしたことはないのですが、材料に使われる「知識」は、意味のあるアイデアのアウトプットにまったく関係ないのだろうかという違和感です。

「知識」は材料に使われるのですから、使いやすい「知識」とそうでない「知識」があるのではないか、役に立つ「知識」とあまり役に立たない「知識」があるのではないだろうかと思われないでしょうか。

「知識」と「知恵」との区別と言ったことに、どうしてこだわるのかと思われたかもしれませんが、**B**「知識」と「知恵」とをやたらと区別し、「知恵」を称揚して「知識」を等閑視するのが世の常識になっ**B**ているようなのですが、**B** いかもしれないということです。

クイズ番組などで「ひらめき」などに焦点を当てたものがありますが、これらの背後には柔軟な思考に対するあこがれと信奉があるように思えてなりません。そこで用いられている材料が、あまり通常の思考には関係のないものだったりすると、その思いを強くします。

思考それも柔軟な思考にあまりに力点が置かれていることに危惧の念を抱いているにすぎません。すなわち、柔軟な思考ばかりに注目して、思考の材料や思考の指針にもなる「知識」の働きを無視しないしは軽視しているのではないかと危惧しているのです。そして、「知識」に質の差があるということに気づいていないのではないかと危惧しているのです。

こう言い換えてもいいかもしれません。「知識」は「知恵」や妥当な解決の単なる材料であつて、アウトプットの質にさして関係しないと思われています。しかしそうではない、大いに関係するというのがここで述べたいことです。

簡単な例として「割り算」を取り上げてみましょう。

「割り算とはどういう演算ですか？」と問うと、ほとんどの人が「分けることだ」と答えます。確かに、「15個の飴あめを5人で等しく分けました。ひとりいくつになるでしょう」といった課題であれば、 $15 \div 5$ という割り算をして、ひとり3個になるという結果を得て「分ける演算だ」ということで問題はありせん。

しかし、 $2/3$ という分数や 0.5 といった小数で割るといえるのはどういう意味なのでしょう。確かに $5/2 \div 2/3$ は、割る数をひっくり返して掛けることによつて答えが得られるというのは、小学校で習うことです。まず全員できるでしょう。問題は、 $2/3$ で割るという意味です。この時、先ほど出てきた「割り算とは分けることだ」という考えが使えないのは明白です。「 $2/3$ 人で等しく分ける」というのは意味をなしません。

あるクルマが、40 Lのガソリンで500 km走ったとします。この時 $500 \text{ km} \div 40 \text{ L}$ で得られる 12.5 km/L という数値は、1 Lあたりの走行距離を表しています。いわゆる「燃費」です。逆に $40 \text{ L} \div 500 \text{ km}$ で得られる数値 0.08 L/km という数値は、1 km走るのに要したガソリンの量を示しています。どちらでどちらを割るのかは、用途によつて異なってきますが、得られた2つの数値は、「割るのに用いた量（距離かガソリンかですが）」の「1あたり」を表しています。これはガソリンが1より小さい量であっても変わりません。「 $6 \cdot 25 \text{ km}$ 行くのに 0.5 L のガソリンが必要でした」という場合に、 $6 \cdot 25 \text{ km} \div 0.5 \text{ L}$ で得られる 12.5 km/L が、1 Lあたりの走行距離、燃費を表しているのは明白です。

割り算が「1あたりの値を求める」演算だと考えるなら、先の分数÷分数のような問題でも意味がわかります。長さ $2/3 \text{ m}$ のパイプの重さが $5/2 \text{ kg}$ だったとしましょう。この時1 mあたりの重さを求めるには $5/2 \text{ kg} \div 2/3 \text{ m}$ となり、 $15/4 \text{ (kg/m)}$ という値が得られます。1 mの重さは $15/4 \text{ kg}$ になるわけです。

「割り算」という同じ演算についての知識ですが、**C**「1あたり」という捉え方が、「分ける」という捉え方より、より広範にものごとを捉えられるのですから、知識として質が良いと言えるでしょう。「1あたり」という捉え方は、「分ける」という捉え方を包含しますし、より広い範囲の割り算を了解でき、より広い範囲で割り算を使えることになるのです。

「1あたり」の「知識」の方が、「分ける」に比較して柔軟に使えるでしょう。同じ割り算に関する2つの「知識」に「差」があるのです。柔軟な思考だけが、アウトプットの柔軟さ・適切さに関わるのではなく、「知識」の違いによつても差を生じるのです。「知識」は思考の質に関係しないわけではないのです。

e トウツツですが、こんな知識をお持ちでしょうか。私たちの体についてですが、胃の内部や腸の内部は体の外側だというものです。口から消化器を通って肛門^{こうもん}まで、ずっと管が通じているのはわかります。ですから、極端に単純化すれば、人間の体は真ん中に穴が空いた円柱に手足がついたようなものです。人間の消化器はドーナツにある穴のようなものです。ドーナツの穴がドーナツの内部とは言えないように、食物が通っていく私たちの消化器は穴なのです。

消化器が外側であるという知識を持っていれば、食物を口に入れると、それでもう体内に取り込んだのだとは思えなくなるでしょう。歯で咀嚼し、胃でこなし、生物で習った憶えきれないほどの種類の消化液を出して、食物を何とか腸壁から内部に取り込めるかたちにしようとしているのだと考えることができるようになるでしょう。

薬だって同様です。薬を飲めばもう体内に取り込んでいると思ひ込みがちですが、消化器内は体外なのですから、胃なり腸なりから吸収されなくてはなりません。だいたいにおいて薬の吸収は半分程度だと考えられているようです。

毒だってそうです。飲んだだけで吸収されなければ害は及ぼさないとはいえずです。吸収されてわれわれの正常な働きを阻害するので毒性を現すわけです。われわれの体と運用のメカニズムを阻害するので毒になるわけで、毒性があるから毒というわけではないでしょう。人には有毒でも別のある動物には無害なこともあり得るわけです。

消化器官が体の外側だと知っていれば、食物や薬や毒が吸収されていくメカニズムがどうなっているのかに興味を引かれるかもしれません。

サプリメントの広告で、患部で重要な機能を果たしているとされる成分が、いかに多く含まれているかをうたっているのをよく見かけます。その成分が患部の不調に関わっているのは認められるとしても、腸からどのように吸収され、どのようなメカニズムで患部にまで運ばれるのか、まず気になってしまいます。

消化器が外側であるという知識を持っていれば、特別柔軟な頭脳を持っていなくても、以上のようなことは考えられるのではないかと思います。少なくともその知識を持っていない時に較べて何らかの違いはあるのではないのでしょうか。

またまた、話は飛びますが、「解が求まるには未知数だけの方程式が必要」などという知識もありましたね。これなどは、問題を解くために方程式を立てている時、現在の自分の状態を自覚する（これを認知心理学ではメタ認知とかモニタリングとよびます）のにすこぶる便利です。メタ認知的またはモニタリ的な知識を持っているのといないのでは、われわれの知的活動が円滑になるかどうかの点で大きな差になる可能性があります。

同様にその知識を持つことによって、大きな知識の適用を行いやすくなるといったこともあります。

たとえば、進化そのものは生物は変化するとのみ言ってるわけで、やや茫漠として使いにくいと感じるかもしれません。しかし、進化は闇雲に変化するわけではありません。ある進化はそれ以前に持った形質をベースにしてそこからの変化です。直前のものを必ずベースにしているのです。

ウマの蹄は、われわれの手足の指先とはかなり違った形態をしています。しかし、通常のとか典型的なほ乳類の手足は5本指です。したがって、それをもとにしてそこから変化していったウマは、指を減らしていつて指一本で立ち、元の指にあったツメを蹄に変化させたのだということにならざるを得ません。

同じことですが、陸に上がり肺呼吸というかたちでそこに適応した動物は、再度水中に生活の場を移したとしても、肺呼吸の様式をそれ以前のエラ呼吸に戻せるわけではありません。肺呼吸を維持しながら水中での生活になるべく適応したものにしていくしかないわけです。

進化を考える時、直前に持った形質をベースにして適応していくという知識は進化論運用のための補助的な機能を果たしてくれま
す。わかりやすくしてくれます。このような知識の保有によって、知識の使用がしなやかに行われる可能性が生まれるわけですから、
D 頭脳の柔軟性だけで知識運用のなめらかさが決まるわけでもないのです。

(西林克彦『知ってるつもり 「問題発見力」を高める「知識システム」の作り方』による)

問 1 二重線部 a と e の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。 解答番号は 1 5。

「a サトリ」 1

- | | | |
|---------------|-----------------|-------------------|
| ① 時代サクゴも甚だしい。 | ② カクゴを決める。 | ③ マツゴの言葉に耳をそばだてる。 |
| ④ ゴフク商を営む。 | ⑤ あの方はすぐれたゴジンだ。 | |

「b ジュウゼン」 2

- | | | |
|-----------------|-----------------|-------------------|
| ① センジュウ民の文化を守る。 | ② ゲンジュウに保管する。 | ③ 反対派の議員をカイジュウする。 |
| ④ ジュウライ通りに進める。 | ⑤ ジュウモクの見所ゆえ慎む。 | |

「c
キす」

3

- ① キゲンを守る。
- ② 皆で平和をキネンする。
- ③ 月からキカンする。
- ④ 生活のキバンを失う。
- ⑤ キセイ事実を積み上げる。

「d
ギガ」

4

- ① 彼はその報道にカイギ的だ。
- ② ギオン語を多用し表現する。
- ③ ギジを進行する。
- ④ 子のおユウギ会を参観する。
- ⑤ 国家元首のソウギ委員長。

「e
トウトツ」

5

- ① トウイ即妙の答弁。
- ② 金策にトウホン西走する。
- ③ 名高いトウシをそらんじる。
- ④ 戦時下のトウカ管制。
- ⑤ 彼女は根っからのアマトウだ。

問2

「A 「獲得した知識を知恵にしなければならない」といった表現」とあるが、それはどのような必要性を訴えているか。その

説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は6。

- ① 知識を他人から借り物として受け取り、それを豊富に蓄積して我が物とし、実際の場面においてそのまま適用する必要性。
- ② 知識を暗記し、試験やクイズ番組などの機会に正確に再現して見せて、知恵として必要に応じ随時アウトプットする必要性。
- ③ 知識を得るに留めず、柔軟な思考で問題解決や適切な判断に活かせる形で深め、実際の場面で役立つ知恵へと変換する必要性。
- ④ 知識を収集する過程において、柔軟な思考を排除し、特定の事実に絞り込んで検証を繰り返し、問題解決に役立てる必要性。
- ⑤ 知識を獲得した後、それに対し批判的検討を加えずして、既存の考え方にできる限りそのまま当てはめ生かそうとする必要性。

問3

「B どうもそれは疑ってかかった方がいいかもしれない」とあるが、筆者がそう言うのはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は **7**。

- ① 昨今のテレビ界では、ひらめきなどを話題に取り上げ、柔軟な思考をもてはやす番組編成を続けているように見えるが、クイズはひらめきだけで解けるものではなく、圧倒的な知識量に支えられていることに着目しないのは不適当だとも考えられるから。
- ② 今時のインターネットやSNSでは、インパクトのある情報が一層目立つよう加工されて流通しているように見えるが、こうした情報は知識と知恵とを組み合わせて読み解く必要があるが、知識も知恵も両方尊重しないのは不適当だとも考えられるから。
- ③ 近年の論壇では、柔軟な思考の大事さがかなり喧伝^{けん}されているが、思考の材料や思考の指針にもなる知識の働きを無視ないしは軽視し、思考の大事さのみを強調する訴えだけが目立つのはバランスを欠いて不適当だとも考えられるから。
- ④ 近頃の世論では、知識は知恵や妥当な解決の単なる材料に過ぎず、アウトプットの質にさして関係しないと思われるが、実はそのとおりで、知識に有用性があるかないかということを議論すること自体が不適当だとも考えられるから。
- ⑤ 現代の風潮では、知識よりもそれを柔軟に運用する知恵のほうのみをもてはやしているように見えるが、解決したい内容ごとに役立つ知識と役立たない知識があるはずで、知識を一括りに扱いその質の差を問わないのは不適当だとも考えられるから。

問4

「C 「1あたり」という捉え方が、「分ける」という捉え方より、より広範にものごとを捉えられるのですから、知識として質が良いと言える」とあるが、筆者はどのような考えから「1あたり」の捉え方が「知識として質が良い」と判断しているのか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は **8**。

- ① 「1あたり」の捉え方は、割り算を単純化して教えやすく、学生だれもが容易に理解できることから、教育の伝統から見ても数の感覚を育む点で非常に有効なものであつて、学校で教える知識として汎用性が高い。
- ② 「1あたり」の捉え方は、割り算を実際の生活場面に限定して適用でき、数値の比率に依存して計算するため、複雑な概念操

作を避けることができ、単純であるがゆえに毎日の生活の中で実践がしやすい。

③ 「1あたり」の捉え方は、割り算を抽象的な数値計算に特化させることにつながり、これによって複雑な概念操作を避けて問題を単純化できることから、単純であるがゆえに知識として適用範囲が広い。

④ 「1あたり」の捉え方は、割り算を「分ける」場面だけでなく分数や燃費などにも適用可能なものにし、具体的な場面の違いを越えてより多様な文脈に対応できる柔軟性を備えているため、問題解決に役立つ。

⑤ 「1あたり」の捉え方は、割り算を「分ける」という幼児教育でも広く使われる教え方に近づけることで、直感的に理解しやすい行為の延長として捉えやすいため、従来の知識に足りない部分を補完する。

問5

「D 頭脳の柔軟性だけで知識運用のなめらかさが決まるわけではない」とあるが、筆者の主張の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は 9。

① 柔軟な頭脳を持つ者こそが高度な知識を獲得できるため、知識の運用能力は結局のところ頭脳の柔軟性の結果にすぎず、知識運用のなめらかさは、知識の量でなく頭脳の柔軟性のみに依存する。

② 知識の質によつては、それだけで思考や判断を支える力を持ち得るため、思考のなめらかさや適切さは、単に頭脳の柔軟性によつてではなく、質の高い知識の有無によつても大きく左右される。

③ 知識の運用は生得的な知性に依存し、教育によつて個人差を完全には埋められないという現実を認めなければならないが、知識と知恵を区別し知恵を優先して教育すれば、その差を縮めることはできる。

④ 思考のなめらかさは、知識の質よりも経験に基づいた頭脳の直観による判断力に依存するため、知識の有無や質の要因はあくまでも二次的なものであり、知識は単なる補助的役割を担うに過ぎない。

⑤ 知識の運用は、知識の内容よりもその獲得過程に依存するため、知識の運用には技術的訓練が不可欠であり、その訓練を通じてのみ頭脳の柔軟性は養われるという技能主義的な視点をもつことが重要である。

二

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

保健医療学部と国語教育専攻は解答

(※表紙(3)を確認すること)

幼い時の体験が、その後のその人の人格形成にどのような大きな影響を与えるかは、まともに考えたら、恐ろしくて、子供にどのような体験をさせたらいいかわからなくなるくらいのものであろう。

多くの場合、その結果は、その人の全般的な心理の深層に影響すると言われるが、もっと皮層の部分で、外国の文化に対するその人の成人後の心理的影響がどう残るかなどということも、調べてみるとおもしろいかもしれない。

私の初めての外国体験は、修道院付属の学校の幼稚園の、受け持ちのイギリス人修道女に出会ったことだった。彼女は子供の能力より、自分の信念で教えたことを教えたが、そのおかげで私は五歳の時から、人間が死ぬべきものであることを教わった。毎日私たちは「**X**」の時も祈りたまえ」と祈ることを教えられたのである。

世界は、生とその最後に訪れる死の概念から始まるのであって、自分もいつか**X**という時を迎えるであろうということをぼんやりと感じていた。それが、私を後年キリスト教へ向かわせるスタートとなった。

私は幼稚園から初等科に進んだ。この学校はほとんど無試験であった。希望者がそれほどなかったのである。当時の制度で言うと、そのまま旧制の女学校まで行けることになっていて、将来を心配することなど全くなかった。

この学校は国際的な人的構成を持っていた。修道女はイギリス、アメリカ、ドイツ、フランス、イタリア、スペインなど各国の人がいたし、語学校と呼ばれた国際学部には、海外で育って日本語ができない日本人の学生だけでなく、さまざまな国の生徒たちがいた。

さらにまだ(注1)大東亜戦争も始まらない小学生の時、私は、後々まで大きな意味を持つ一つの体験をしたのである。

それは或る^あ昼休みのことだった。私は当時、昼の食事代を特別に払って学校で食べる生徒の一人だった。うちが金持ちだったというのではなく、母が恐らくお弁当を作るのがめんどくさいという怠け者で、しかしそれだけではなく、テーブル・マナーを厳密に^{しつけ}躾てもらえるのがいいと考えたかららしい。私たちは修道女たちが作る昼の食事を待って、食堂の外でドッジ・ボールをして遊んでいた。

すると、友達の投げたボールが裏庭の端に茂っている竹藪^{たけやぶ}の中に入った。私はそれを取りに行き、思わず恐怖で立ち竦^{すく}んだ。

「人の骨がある」

私は言った。藪の中には乾いて白くなつた骨がうずたかく積まれていたが、私は骨と言えば人骨としか思わなかったのである。それが私たちも飲んでいたスープを取るために毎日毎日使われた牛骨だということがわかった時、**A**私は新たな現実と直面した。典型的な日本の小市民の家庭に育った私は、修道院というものを、仏教的な風土で解釈していたのだ。農耕民族である我々は穀物を食べるのは当然だが、動物を殺して食べるということには、罪の意識がある。しかし二世紀に上エジプトで生まれたという修道院はまさに荒野と牧畜文化の真つ只中^{ただ}でその形態を取り、そのまま中世のヨーロッパで発展完成したのであった。その土地もまた牧畜文化の土地であつたのである。だから修道院が肉食をするということに、基本的な違和感があるわけはなかったのである。後年私は、偶然一人の短期旅行者として中近東やアフリカを何度も旅した。そして、もし幼時にキリスト教と、その背後の一神教の精神風土というものをいささかでも覗いてい^{のぞ}なかつたなら、今以上にひどい自分流の解釈をしたろう、と^(注)おぞけをふるつたものであつた。

当然、私の学校はキリスト教に基づいて子女を教育するというはつきりした姿勢を持っていた。それは自然に神を意識するというものであつた。どこにいても神の眼が私たちを貫いて、すべてをご存じだという意識を持たされるのである。つまり日本風に言うと、押し人れの中に隠れて、蒲団^{ふとん}を被つていても、人間の考えを見通す神がいるということは、すさまじい概念である。

一般に詐欺師は、人を騙^{だま}せばそれで成功である。しかしキリスト教徒は、人を騙^{だま}しただけではだめなので、神をも騙せなければ(納得させなければ)成功とは言えない。それが、人間を悪^{わる}にもするし、複雑にもする。だから **B**ヨーロッパには、日本人が考えられないような悪人がいるが、それは長年、善悪に対して人間のレベルを超えて、神と闘いを行ってきたからである。人間を騙すなんて易しいものである。しかし人間の心理をお見通しの神を騙すということになると、これはまことに複雑な操作がある。

この頃ヨーロッパ人の中にも、進歩的であることを **p**標榜^{ひょうぼう}しているような人たちの中には、はつきりと無神論的態度を見せる人がある。それがあたかも新しい人間であるかのように、優越感を示す人に私は何人か会った。しかし、神なしに人間だけ騙せばいいなどというのは、程度を下げることだから、私にはおもしろくない。

日本の神は「捨てる神あれば、拾う神あり」という多神教の世界の概念である。しかしユダヤ教、キリスト教、イスラム教の神は唯一神だから、その神を避けて別の神のところへ行き、知らん顔してよりを戻すということもできない。神はいつまでも、その人の

したことを覚えているのである。

と言うと、「そんなことうつとしいじゃない。信仰なんてしなければ、罪も犯しようがないのに、どうしてそんな損なことするのよ」と言う人によく出会う。これは日本人に多い種族である。つまり魂の問題まで、物質的な損得の計算で決める人種である。

自分が何をしたかを、できれば克明に認識することほど、人生を濃厚に生きる道はない。こののつびきならない状況でたった一人の神と相對する時、人間は否応なく、掛け値のない自分と対決することになる。それは、本音と嘘をついている自分とが、その瞬間瞬間に克明に見えることでもある。人間は基本として「間違えるもの」なのだから、この操作によって自分の醜惡な顔が見えても、それほどショックを受ける必要もないと思うのだが、それを損ととる人が日本にはけっこういるのである。

というのは、日本人の意識においては、自分をも他人をも、善意に解釈することがいいとなつていて、仮借ない観察などというものは、ごくろうさまなばかりか、むしろ非礼なものという感じがあるのだろう。

たしかに人を眺める時に、さらりと見るのと、じろじろ見るのでは、感じが違うのは当然である。しかし荒っぽく言えば「じろじろ見たら他人は気分が悪いだろうな、と思うのが日本人」「見たければ見たいだけ見るのが外国人」という感じがあることも否めない。

このへんでいささかの言い訳をすれば、私は外国に住んだこともなく、比較文学や文化人類学の学者でもない。私は何度も外国に出たが、語学が達者なわけでもなく、本来はお上りさんの観光旅行と基本的な差はない。ただ、作家というものには、一種独特の嗅覚があり（それすらも錯覚かもしれないが）、取材となると観光よりは少し突っ込んで見ることになっていて、その程度だけ深く関わったにすぎない。その素朴すぎる驚きを不愉快に思う方もあるだろうが、それを覚悟で私の外国体験を述べてみたいと思うのである。

ということとは、私よりもつとよく外国を知っておられる方が、これはそうではない、と一言言われれば、たちどころにそちらの意見に従つても一向に構わない、という程度の印象である。

どこから始めてもいいのだけれど、私は日本人は自由世界の中ではかなりの建前人種のような気がしている。もつとも中国人のような（注3）超弩級の建前人種もいるが、これは思想的不自由の中で身を守るためだから、普通の比較はできない。

小さな体験を挙げれば、日中国交回復後の一九七五年に中国へ初めて行った時、私は他に人のいない時、中国人の通訳さんに笑い

ながら「中国語で、バカって何て言うんですか」と訊いたことがあった。すると、その通訳さんは「中国には、そのような人を悪く言う言葉はありません」と答えたのである。

C そこに欠けているのは当然のことながら、現実の正視とユーモアの精神である。「バカ」という言葉は多分、ほんとうに知能の低い人に向かつては言わない言葉なのではないか、と思う。「あの人バカ」と言う時、その言葉の中には、当然向こうも自分のことを同じように「バカ」と思っているだろうな、という予感もある。何せ世の中はすべて

しかし「バカ」などと人を罵倒する言葉はない、などと言われると困ってしまう。この世には善悪を超えてすべてのものが存在するのは自明の理なのに、である。

日本人は、自分と他人をまず道徳的な人間だと規定する。この場合の「道徳的」というのは、いいことをするということを指しているのではなく、悪いことをしないという意味の方が強い。社会主義国を除いて、これほど細かいところまで、常識的悪と思われるものを徹底して非難し、人間にあるまじきこととして心底から否定する国民はあまり多くないような気がする。

或る時、もちろん日本でのことだが、寒い雨の日に、私はタクシーに乗ることになった。私はちよつとした荷物を持っていた。客を乗せる場所を目指して行くタクシーはひっきりなしに私の傍を通る。止めて乗ってしまいたい思いにしきりに駆られたが、タクシーも同業者の眼のきく範囲でルール違反をしたくないらしく、乗車を拒否されたこともあったので、私は律義に歩いて列の最後に就いた。長い距離ではない。七、八十メートルくらいのものである。しかし歩きながら、私は可笑しくなった。こういう律義さは、多くの国で、決して日本人のように美德とは思われていないだろうと考えたからだ。

日本人は生活のルールを自発的に決めることが非常に好きな人間である。

タクシーの乗り場だけではない。お茶をいれるにも花をいけるにも、一種のルールを持ちたがる。それは D 芸術的な節度と、性格的な弱さとの両方を示していると思う。

人間の生活は、そもそも基本的には「我勝ち」なのである。しかし文化の構造の複雑性の緊張度が高く厳しいところでは、「我勝ち」は共倒れになることを我々は知ったのである。例えばもし高速道路の合流点で、我勝ちに車を取り入れようとしたら、すぐ接触事故が起こり、結果として道路は使用不可能になり、我々は長い渋滞に巻き込まれる。だからそれを考えて、我々としては心ならずも一台おきに合流するというルールに従っているのである。

私は一九八七年、パリで車を借りて、モロッコ、チュニジアを旅行したが、この両国も決して順番を守る国ではなかった。地中海を渡るフェリーの中で通関の手続きをするのに、後ろからも横からも平気でするりと入って来る。まわりの人もそれを特に怒るわけでもない。割り込みを許したくなかったら、こちらも実力でそれを阻止するほかはない。当然のことながら、これはかなり不愉快な実力行為である。

アフリカだけがこういうものでもないらしく、アメリカのサンフランシスコの空港でも同じような体験をした。発展途上国並みの長い入国手続きの列の先頭近くに、何国人とも知れない白人の女たちが平気で割り込み、日本航空の職員がそれを咎めても、全く平気で動こうとしないのである。個人がこうなら、国家でもこういう行為が平気なのがあるだろうと思う。

(曾野綾子『生き抜く力』による)

(注) 1 大東亜戦争——一九三七年から一九四五年にかけて行われた日本の対外戦争(当時の日本政府による呼称)。

2 おぞけをふるった——恐怖にかられて体がふるえた。

3 超弩級——規模が大きく並外れている様。

問1 波線部 p r の本文中における意味として最も適当なものを、次の各群の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は

12。

「p 標榜している」

10

- | | |
|--------------------|--------------------|
| ① ① 自分の立場を明らかにしている | ② ② 他者にも強要しようとする |
| ③ ③ ひそかに伝えようとしている | ④ ④ 他者にさとられないようにする |
| ⑤ ⑤ 自問自答を重ねている | |

「q のつびきならない」

11

- | | | |
|--------------|-----------------|-----------------|
| ① ① 前に進むしかない | ② ② 判断しなければならない | ③ ③ どうすることもできない |
|--------------|-----------------|-----------------|

- ④ 誰かに頼らねばならない ⑤ 立ち止まらなければならない

「^r仮借ない」

12

- ① 心が広くて寛大な ② 粗野で乱暴な ③ 表面的で丁寧さの欠ける
④ 客観的で正確な ⑤ 厳しくて遠慮のない

問 2

X

Y

に入る言葉として最も適当なものを、次の各群の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。なお、
所あるが、同じ言葉が入る。解答番号は 13 14。 X は二か

X

13

- ① 生誕 ② 降臨 ③ 飢餓 ④ 成熟 ⑤ 臨終

Y

14

- ① 千差万別 ② 五十歩百歩 ③ 五里霧中 ④ 支離滅裂 ⑤ 千変万化

問 3

「A 私は新たな現実直面した」とあるが、ここにおいて筆者はどのようなことを理解したのか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は 15。

- ① 日本人である自分は動物を殺してはならないと教わってきたが、結局は肉食文化の上に生活が成り立っていることを知り、人間そのものが罪深い存在であることを理解した。

- ② 自分がこれまで漠然と思っていた宗教に関わる人は殺生をしないものだとする考え方は、あくまで自分が典型的な日本の家庭に育ったことを背景として培われてきたものであることを理解した。

- ③ ヨーロッパの人たちと自分たち日本人との死生観の違いは、牧畜文化と農耕文化の違いから生まれており、いかなる努力をしても違いを埋めることはできないことを理解した。
- ④ 修道院の付属学校で生活していくうえでは、動物を殺して食べるという現実を受け入れるしかなく、自分の背景である仏教的な考え方は捨てなければならぬことを理解した。
- ⑤ 宗教に関わる人が動物を殺すことに罪の意識を持たないことを知り、その背景にある牧畜文化に嫌悪感を覚えるとともに、農耕文化により育まれた精神性が素晴らしいものであることを理解した。

問 4

「ヨーロッパには、日本人が考えられないような悪人がいる」とあるが、筆者がこのように考える理由の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は **16**。

- ① キリスト教社会では人間ではなく神のみが善悪の判断を下すものと考えられているため、人間にとっては悪行とされることで神が許せば善行として認められるから。
- ② ヨーロッパにおいて人は神を超越することが求められるが、それを成し遂げることは不可能であるため、いつの時代にも自らを神と偽り人を騙そうとする行為が繰り返されるから。
- ③ キリスト教徒には人間ではなく神を納得させることが成功の条件であるため、その行いは複雑なものとなり、日本人の考える善悪の基準から外れる悪行がなされることがあるから。
- ④ ヨーロッパ社会は長年にわたり闘いの歴史を重ねてきたため、新たに無神論を唱える人が増えており、そうした人による行為が従来の価値観から外れたものと考えられるから。
- ⑤ キリスト教は常に神の存在を意識することを求めるため、キリスト教徒の行動は抑制的なものとなり、大らかな宗教観を持つ日本人にはそれらが奇異な行動と感じられるから。

問 5

「**C** そこに欠けているのは当然のことながら、現実の正視とユーモアの精神である」とあるが、通訳の言葉は何を欠いているというのか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は **17**。

- ① 人はすべて道徳的な存在であるという考え方に基づき、常に悪なるものの排除に努めなければならないのに、そうした考えを持つ人の存在や態度を大切にしようとする姿勢を欠いているということ。
- ② 建前を重んじる中国社会においては、人間は非道徳的な存在であるという考え方を前提とするため、すべての人間が持つ善なるものへの信頼や些細な悪行への寛大さを欠いているということ。
- ③ 神の存在が認められない社会主義国においては、人間の精神性の弱さや人間の知性を越えた存在を認めることが許されず、大

いなるものの意思に身をゆだねようとする寛容さを欠いているということ。

④ この世には善なるものも悪なるものも存在するという道理を認めようとはせず、またそうした事実を受け入れ、ある種のあきらめや笑いとともには許容しようとする大らかさを欠いているということ。

⑤ 日本では常識的悪とされるものは徹底して排除されているが、中国社会ではこうした当然のことが徹底されておらず、そうした現実の問題意識を持って対処しようとする課題意識を欠いているということ。

問 6

「D 芸術的な節度と、性格的な弱さとの両方を示していると思う」について、筆者が考える日本人の特性を説明したものとして最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は **18**。

① 日本人は共存していくためのルールを定め、それを他者の目の有無にかかわらず守ることを自らに課すとともに、「我勝ち」の行動をとろうとする衝動を自制する律義さを有している。

② 日本では茶道や華道に見られるように、作法に従った所作が芸術性を高めるものとされるため、決められたルールに従うことが優先され、一貫して自らの意思を主張しない姿勢を持っている。

③ 日本は他の国に比べて「我勝ち」の性格が強いので、国際社会において不利な立場に置かれることがあるが、共倒れを回避するうえで控えめな態度をとることは望ましくないと考えている。

④ 日本人の生活はルールなしに成り立たないものであり、そのルールに反する行動は社会から排除される危険性を持つため、一人一人が自律的な精神性が鍛えられることなく今日に至っている。

⑤ 日本人は自分たちの常識が外国人には通用しないことを理解しており、そのため生活のルールや美的感覚を自分以外の人に強要することはしない謙虚さと孤高の精神性を備えている。

(保健医療学の解答はここまで)

三

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

保健医療学部以外は全員解答

(※表紙(3)を確認すること)

良岑^{よしみね}の宗貞^{むねただ}の少将、ものへゆく道に、五条わたりにて、雨いたう降りければ、荒れたる門に立ちかくれて見入るれば、五間^{けん}ばかりなる檜皮^{ひはだ}屋のしもに、土屋倉などあれど、ことに人など見えず。歩み入^{うくひす}りて見れば、階^{はし}の間に梅いとを^pかしう咲きたり。鶯^{うぐひす}も鳴く。人ありとも見えぬ御簾^{みす}のうちより、薄色の衣、濃き衣、うへに着て、^Aたけだちいとよきほどなる人の、髪、たけばかりならむと見ゆるが、

よもぎ生^おひて荒れたる宿をうぐひすの人来^くと鳴くやたれとか待たむとひとりごつ。少将、

来たれどもいひしなれねばうぐひすの君に告げよと教へてぞ鳴く

と、声をかしうていへば、女おどろきて、人もなしと思ひつるに、物しきさまを見えぬることと思ひて、ものもいはずなりぬ。男、縁^{えん}にのぼりて^aゐぬ。「^Bなどかものものたまはぬ。雨のわりなくはべりつれば、やむまではかくてなむ」といへば、「^C大路よりはもりまさりてなむ、ここはなかなか」といらへけり。時は正月十日のほどなりけり。簾^{すだれ}のうちよりしとねさしいでたり。ひき寄せてゐぬ。簾も、へりは^注かはほりに食はれて、ところどころなし。うちのしつらひ見入るれば、むかしおぼえて畳などよかりけれど、口惜しくなりにけり。日もやうやう暮れぬれば、^rやをらすべり入^rりて、この人を奥にも入れず、女、くやしと思へど、制すべきやうもなくていふかひなし。雨は夜ひと夜降りあかして、またのつとめてぞすこし空晴れたる。男は女の入らむとするを、「ただかくて」とて入れず。日も高うなれば、この女の親、少将にあるじすべき方のなかりければ、小舎人^{こどねりわらは}童ばかりとどめたりけるに、かたい塩^{しほ}、肴^{さかな}にして、酒をのませて、少将には広き庭に生ひたる菜をつみて、蒸し物といふ物にして、長碗にもりて、はしには梅の花のさかりなるを折りて、その花びらに、いとをかしげなる女の手にて、かく書けり。

君がため衣のすそをぬらしつつ春の野にいでてつめる若菜ぞ

男、これを見るに、いとあはれにおぼえてひき寄せて食ふ。女、わりなうはずかしと思ひてふしたり。少将起きて、小舎人童を走らせて、すなはち、車にてまめなる物、さまざまにもて来たり。「迎へに人あれば、今またまゐり来^こむ」とていでぬ。それよりのち、たえずみづからも来^きとぶらひけり。^Dよろづの物食へども、なほ五条にてありし物は、めづらしうめでたかりきと思ひいでける。年月を経て、仕うまつりし君に、少将^xおくれたてまつりて、かはらむ世を見じと思ひて、法師になりけり。もとの人のもとに、袈裟^{けさ}あら

ひにやるとて、

E 霜雪のふる屋のもとにひとり寝のうつぶしぞめのあさのけさなり
となむありける。

(注) かはほり——こうもり。

(『大和物語』による)

問 1 波線部 **p**・**r** の解釈として最も適当なものを、次の各群の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は **19** ～ **21**。

「**p** をかしう」

19

- ① しみじみと
- ② 滑稽に
- ③ 見事に
- ④ ばかりしく
- ⑤ 奇妙に

「**q** みぬ」

20

- ① 立ち去った
- ② 時間が経った
- ③ いなくなった
- ④ 一緒に寝た
- ⑤ 座った

「**r** やをら」

21

- ① そつと
- ② そのまま
- ③ やつと
- ④ むやみに
- ⑤ 急いで

問 2 二重線部 **x** の敬語は、誰に対する敬意を示しているか。次の中から一つ選びなさい。解答番号は **22**。

「**x** おくれたてまつりて」

22

- ① 少将
- ② 女の親
- ③ 小舎人童
- ④ 仕うまつりし君
- ⑤ 法師

問3

「A たけだちいとよきほどなる人の、髪、たけばかりならむと見ゆるが」の解釈として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は **23**。

- ① 立ち姿がとてもきれいな感じの人で、髪が伸び放題で竹を割ったように見える女が
- ② 背丈がたいそうちようど良い程度の人で、髪の長さが背丈ほどであろうと思われる女が
- ③ 立ったときの背の高さが非常に高い人が、髪の毛を自分の背丈ぐらいに伸ばそうとしているけれど
- ④ 生い立ちがとても良い感じの人の髪の毛が、たいそう長く、背丈ほどに伸びてしまっているのに
- ⑤ 背がそれほど高くない人で、髪の毛が座ったときにちようど身の丈になるくらいうぐいすの女が

問4

「B などかものものたまはぬ」について、ここにおける状況の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は **24**。

- ① 五条あたりの家に雨宿りのために入った少将が、風情ある和歌を口ずさんでいたその家の女に和歌を返したが、口を閉ざしてしまったため、なぜ何も言わないのかと尋ねた。
- ② 五条あたりの家に通っていた少将が、雨がとても降る中、庭の梅の枝で鳴くうぐいす鶯の風情ある声に感動して和歌を詠んだが、その家の女が返歌をしなかったため、どうして返歌しないのかと尋ねた。
- ③ 雨が激しく降る中、五条あたりの家で女を垣間見た少将が、女を鶯に例えた和歌を詠み掛けたところ、女が目を覚ましたが何も答えなかったため、なぜ何も言わないのかと尋ねた。
- ④ ある所へ行く途中に大雨にあった少将が無人だと思って雨宿りした家で、風情ある声で和歌を詠む声を聞いて返歌したが、何も返答がなかったため、だれもいないのかと尋ねた。
- ⑤ 雨宿りに立ち寄った家で風情ある女を見つけた少将が、和歌を詠み掛けて口説いたところ、訪れる者がいないと思って油断していた女が口を閉じたため、何か言うことはないのかと尋ねた。

問5

「C 大路よりはもりまさりてなむ、ここはなかなか」の解釈として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は **25**。

- ① 幅広い道に面した家よりは土塀を高くしているので、この家はかえって雨漏りがしません。
- ② 大通りに面した家は大きいので、この家は雨宿りするには中途半端です。
- ③ 幅広い道に面した家よりは土のうを積んでいるので、この家は洪水の危険がありません。
- ④ 大通りよりはいっそう雨が漏れるので、この家ではかえって雨宿りになりません。
- ⑤ 幅広い道に面した家よりはひどく濡れるので、むしろ雨をしのぐことは難しいです。

問6

「D よろづの物食へども、なほ五条にてありし物は、めづらしうめでたかりきと思ひいでける」の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は **26**。

- ① 少将のお供は今までいろいろな珍しい物を食べたけれども、やはり五条の女の家で塩を肴にして飲んだ酒が、一番良かったと回想している。
- ② 少将は今までいろいろな物を口にしたけれども、とりわけ最初に五条の女の家で食べた物は、珍しくすばらしかったと回想している。
- ③ 少将は今まで様々な大量の物を食べたけれども、依然として最初に五条を訪ねた時に出された質素な朝食が、めったになくすばらしかったと回想している。
- ④ 少将は今まで様々な馳走を食べたけれども、かえって五条に住んでいた時に初めて出された朝食が、目新しくて褒めたくなくなったと回想している。
- ⑤ 少将のお供は今まで種々の物を食べたけれども、依然として最初に五条の女の家でもてなされた時の酒と蒸し物が、新鮮で美味かったと回想している。

問 7

「E 霜雪のふる屋のもとにひとり寝のうつぶしぞめのあさのけさなり」の歌についての説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は **27**。

- ① 法師となった五条の女の親が娘に、「古びて屋根の隙間から雪明かりが漏れる古家で、薄墨色に染めた麻の衣を着てひとり寝する始末です」と、今の生活について詠んだ。
- ② 法師となった五条の女の親が娘に、「霜や雪もしのげない古い家の中で、一人暮らししている私が初めてうつぶせ寝した朝です」と、出家後の生活について詠んだ。
- ③ 法師となった少将が昔の恋人の五条の女に、「霜や雪の降る古いあばら屋に、ひとり寝をして修行している私の薄墨色の麻の袈裟です」と、共寝をした昔を懐かしんで詠んだ。
- ④ 法師となった少将が長年連れ添った五条の女に、「白髪のような雪が積もる家で年を取るまで暮らす中で、初めてあなたと共に寝できない今朝です」と、名残を惜しんで詠んだ。
- ⑤ 少将が長年仕えた帝の使者が少将に、「長年住み続けてすっかり古くなった家で、帝亡き後に法師となってひとり暮らす身にも朝はやってくる」と、ねぎらいの気持ちを込めて詠んだ。

問 8

本文は『大和物語』の一節である。これと成立の時代が異なる作品を次の中から一つ選びなさい。解答番号は **28**。

- ① 伊勢物語
- ② 栄花物語
- ③ 土佐日記
- ④ 竹取物語
- ⑤ 平家物語

(全学部 of 共通問題 終わり)

※ 教育学部 **国語教育専攻** の受験者は、このあとの **四** にも解答しなさい。

国語（国語教育専攻の追加問題）

*教育学部国語教育専攻の受験者は、☐一・☐二・☐三に解答し、さらに次の☐四にも解答しなさい。

*☐四の問題にも、マーク式解答用紙を使って解答しなさい。

四

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

国語教育専攻のみ解答

(※表紙(3)を確認すること)

俳句は、数少ない言葉で深い内容を伝える。当然、饒舌^{じょうぜつ}は排除され、深い心もわずか数語の中に集約される。かつて『朝日新聞』の投書欄で、「俳句は戦争体験を歌えるか」というテーマで、読者同士の論争が行なわれた。そして、大方の意見は「歌えない」という方向に傾きかけていたのであるが、その折、東京在住の藤井昇氏が「俳句も悲しみのはけ口」との題のもとに寄せられた意見が、いまだに忘れられない。

わたし自身、歌人でもないのだが、忘れがたい句として、

鰯雲^{いわし}人に告ぐべきことならず (加藤楸邨^{しゅうそん})

がある。どういう状況で書かれたかは、それこそ作者に「問うべきことならず」で、わたしは、わたしなりに、この名句に、わが四十四年の過ぎ^a ｺし^aかたを反芻^{はんすう}している。

短歌がもつともなまなましく戦争体験を歌いあげられる理由のひとつとして、わたしは「女歌」の系譜があることを素人なりに指摘したい。それは先日「天声人語」にも紹介された「恋に恋いて心阿修羅^{あしゅら}となる」慟哭^{どうこく}の文学であろう。

しかし、その慟哭よりもさらになさしい思いを秘めて、「鰯雲^{いわし}人に告ぐべきことならず」と、みずからに言い聞かせる俳句という芸術も、また、わたしたち日本人のかなしみの^pはけ口であることを、少なくともわたしは、忘れたくない。

(昭和四十八年九月七日掲載)

内なる自分を相手に伝えるのではなく、己の心に留めて相手に伝えたい。深い心を押し留めることによって、伝える以上の効果を獲得する。ここまで来れば、余白の効用どころではない。まさに「 」である。意志伝達の一方の極みといってもいい。言葉巧みに言を尽くすのも表現の極致なら、言葉を節約し、時には言葉を放棄してそれ以上の表現効果を期待する。これも優れた伝達の在り方の一つと見ていいのではないか。省略や推量の表現、二重否定・曖昧・婉曲^{えんきよく}の叙法なども基本のところは同じで、含みのある余情的な表現を生み出していく。能の世界のユウ^b ゲン^bや、蕉風俳諧^{しやうふう}に見られる美意識も根は共通であろう。いずれも自己の手の届かぬ対象(外の世界である自然や、己の内部観念)に対処する「己が目から生まれた言葉の姿」というふうに理解してよいのではないだろ

うか。

言葉と文学とは密接な関係がある。日本語表現の根底に“己の目”中心の対象把握がある以上、しよせん日本人はこの“ものの見方”から逃れられない。それが結果として、個々の句や文の問題から、談話文章のレベルにまで及んで、あまねく覆い尽くされることになる。日本文学に一人称主体の私小説が多いのも、随筆と小説との境が曖昧なもの、恐らくその現れであろう。

日本文学の代表に俳諧があるが、あの発句の十七文字に見られる極端に省略された対象把握の姿勢は、やはり自己の目中心の対象把握だ。己の目、それはとりもなおさず自身の心なのだが、その目に映る状況を、状況把握としてただ羅列する。一見、客観描写のように見えるが、決してそうではない。外の世界を対象化して分析的に解説する態度ではなく、ただ己の目に映るがままを、己の視点で述べるだけなのだ。たとえば、あの有名な芭蕉の「古池や」の句でも、蕪村の「月は東に日は西に」の句でも、いずれも自己の目や耳に映る外の世界を把握する“己中心の文学姿勢”に徹している。極端な場合は、

時鳥馬追船頭お乳の人

(注1) 上島鬼貫)

梅若菜鞠子の宿のとろろ汁

(松尾芭蕉)

時鳥鴨川の水山法師

(李由、注2) 河野通賢)

桐桜櫨柿朴庭落葉

(注3) 瀧井孝作「椿咲く」)

のように、ただ外の世界の事項を羅列するだけの句すら生まれるのである。この、自己を取り巻く場面や対象をただ受け止めているだけに見える言葉の羅列が、実は、それぞれの語の背後に、心の目でキャッチした作者の主観を潜ませる、極めて日本語的で高度な文学手法となっている。次に引用するのは、俳人高浜年尾が、かつて通学をしたこともある懐かしの地、冬の小樽を訪ねた折のことを綴った文章であるが、そのとき得た句に対する父虚子の意見には、耳傾けるべきものがある。引用してみよう。

並んで腰を下した櫓の私達二人を大きな馬が力強く引張った。郊外の雪野を駆ける馬櫓の速力は速かった。一直線の雪道であった。私の前には御者も居ったが、馬の尻が行く先の道を遮った。

わが櫓の馬が大きく道かくす 年尾

その時出来た句であつたが、これは父に見て貰^{もら}ったところ、

わが櫓の馬が大きく町かくす 虚子

と添削された。この時私は事實は道をかくしたのだつたがと云^いつたところ

「事實はそうであつたろうが、町かくすということも本当だろう」と父はあえて云つた。

「そりやそう云つてもおかしくはないでしょう。町並みも一方にあつたのですから、何も町全体を馬がかくしたわけではなくてもそう云えると思いますね。」

私は父のこの添削に大いに教えられるものを感じた。考え方の飛躍というのがこれであると思った。

(高浜年尾『父虚子とともに』「思い出づるままに」より)

現実の目は「道をかくす」ととらえたであろうが、心の目はまさに「町かくす」であつて、そこに作者の主観が大きく入り込む。現実を現実そのままに切り取るだけでは芸術にならない。単なる素人写真だ。いかに己の主観で現実をとらえ直すか、時に現実を逸脱し現実からはみ出した主観の眼鏡が、結果として現実をはるかに超える真実となつて鑑賞者に迫ってくるから芸術とは恐ろしい。近松のいう、虚実は皮膜の間にあるというあの虚実皮膜論とはこのことをいうのであろう。嘘^{うそ}(作者の内なる主観でとらえた仮の姿)と真実(客観的な外の対象)とは紙一重ということなのである。思いつくままに幾つか句を挙げてみよう。たとえば芭蕉の

初しぐれ猿も小蓑^{みの}をほしげなり

B 海暮れて鴨の声ほのかに白し

において、小蓑を「ほしげなり」と猿に対して感じたのも、暗い海に鳴く鴨の声を「ほのかに白し」ととらえるのも、共に芭蕉のその折の主観にすぎず、対象の客観的真実とは関係ない。ましてや **C** 鴨の声を「白い」と色彩感覚でとらえるなど、なんと鋭い感性であろう。心ある動物といえども、猿が小蓑を欲しがっているかどうか、そんなことはわかりはしない。対象への感情移入だ。だから、対象が心を持たぬ非情物であっても、

啄木鳥や落葉をいそぐ牧の木々 (水原秋桜子)

と、あたかも木々が己の意志でその葉を落とすかのように急いでいるといった見立ても芸術として十分可能なわけである。
外の対象に対しての受け止め方に、表現者の視点の芸術性・独創性が問われる。見立ての妙である。そして、比喩的なとらえ方も擬人法もその手法の一つと考えてよいであろう。

葉桜の中の無数の空さわぐ

(注4) 篠原 梵 しのはら ぼん

紅梅や枝枝は空奪ひあひ

(注5) 鷹羽狩行 たかは 鷹羽狩行

空が騒いでいるのも、紅梅の枝が空を奪い合っているのも、作者の心の目がそうとらえているのであり、そこに嘘偽りはない。外の世界を内なる己がいかに把握するか、外は客体的な外在世界と考えるのは論理の世界であり、日本語の発想ではない。日本語はあくまで己の内なる視点に投影した世界として主観的に把握する。自分を取り巻く周囲の「世界」対「己」の関係で、自らが受け止めた印象や感覚として対象を理解する。受身的発想が日本語の基本的姿勢であり、受けの態度があまねく日本の文化全般に見られるのであるが、それは章を改めてまた述べることにする。

(森田良行『日本人の発想、日本語の表現』による)

(注) 1 上島鬼貫——江戸時代中期の俳諧師(一六六一～一七三八)。「東の芭蕉・西の鬼貫」と称された。

2 河野通賢——江戸時代前期の僧・俳人(一六六二～一七〇五)。字は李由。芭蕉の弟子。

3 瀧井孝作——岐阜県出身の小説家・俳人・編集者(一八九四～一九八四)。新傾向俳句運動に携わった。

4 篠原梵——愛媛県出身の俳人、編集者・出版者(一九一〇～一九七五)。「人間探求派」と呼ばれた。

5 鷹羽狩行——山形県出身の俳人(一九三〇～二〇二四)。

問 1 二重線部 **a**、**b** の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は **29**。

「過ぎ **a** コシ」 **29**

- ① その場からタイキヨする。
- ② 友人がライホウする。
- ③ コチヨウして伝える。
- ④ 士気をコブする。
- ⑤ チヨウジンテキな力。

「ユウ **b** ゲン」 **30**

- ① 理念をタイゲンする。
- ② ゲンソウを抱く。
- ③ ゲンドを超える。
- ④ ゲンマイを貯蔵する。
- ⑤ 諸悪のコンゲン。

問 2 波線部 **p**、**q** の本文中における意味として最も適当なものを、次の各群の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は **31**。

「**32**。」

「**p** はけ口」 **31**

- ① 発散させる対象
- ② もう一つの姿
- ③ 貴く美しい代償
- ④ 凝縮された状態
- ⑤ 健全な表現方法

「**q** とりもおさず」 **32**

- ① 漏れるところなく
- ② 言い換えれば
- ③ そっくりそのまま
- ④ とりつくろった
- ⑤ 当面の場において

問 3

に入る言葉として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は **33**。

- ① 立て板に水
- ② 言わぬが花
- ③ 水を得た魚
- ④ 鶴の一声
- ⑤ 知らぬが仏

問 4

「A 次引用するのは、俳人高浜年尾が、かつて通学をしたこともある懐かしの地、冬のおたる小樽を訪ねた折のことを綴った文章である」とあるが、高浜年尾とその父・虚子の俳句がここで例に挙げられている理由として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、**34**。

- ① 父と子の俳句の表現内容を対比し、二人の俳人の感性の世代差や表現方法の変遷について具体的に示す意図があるため。
- ② 実際に目にした風景を客観的かつ忠実に描写することの重要性を説明し、写実性を重視することの意義を強調するため。
- ③ 高浜虚子の俳句指導に対する妥協を許さない真摯な姿勢を紹介し、俳句における教育的師弟関係の重要性を論じるため。
- ④ 主観的表現を否定し、自然や事実には忠実な記録的表現を俳句の理想として示すための対照的な材料として提示するため。
- ⑤ 表現者の主観的視点によって現実の出来事が深く再解釈され、芸術的価値を生むことがあるということを示したため。

問5

授業で本文を扱う教師から『**B**海暮れて鴨の声ほのかに白し』の解釈について、本文以外の解説文も探してみよう」という課題が出された。本文および生徒達が探してきた次の三つの文章【P】〜【R】を読んで、これらの文章について述べた文として最も適当なものを、後の中から一つ選びなさい。解答番号は**35**。

【P】

芭蕉は熱田の人達から誘われて、舟に乗って「師走の海」を見に行つた際、段段日が暮れて来て、あたりが暗くなったのに、急に鴨の声が聞こえたので、芭蕉にはそれが、闇を次第に追いつけて行きそうな気がしたので、それを「鴨の声ほのかに白し」と表現したのだろうと思う。

(小宮豊隆『芭蕉句抄』による)

【Q】

海はまさにとつぷり暮れて、どこかで鴨の声がする。それを「ほのかに白し」と言った。声に白いという法はない、などと理屈っぽい人は言うが、そこは感じであつて、この句を誦しょうすると、暗い海上で鴨の声を聞く情景が、われわれにも感じられてくる。一字一句の意味や結び関わりを辿たどつて、あらゆるものを解釈しようとする人は、「鴨の声ほのかに白し」に当惑すると思うが、苟いやしくも俳句を解する人ならば、文字に縛られずにこの趣を感じ得る筈はずである。「声ほのかに白し」がむりならば、黄いろい声を張り上げるなども、やはり無理でなければならない。

(永田龍太郎『松尾芭蕉全発句集』による)

【R】

著作権の都合上、省略

① 本文および【P】では、暗い海の上で聞こえてきた鴨の声を聴覚でとらえ、「ほのかに白し」と視覚的に表現しているのに対して、【Q】および【R】では、とつぷりと暮れた海の彼方から聞こえてきた鴨の声を聴覚でとらえ、詩人的感覚の鋭さによりその声を「ほのかに白し」と視覚的に表現している。

② 本文および【P】【R】では、とつぷりと暮れた海の彼方から聞こえてきた鴨の声を聴覚でとらえ、「ほのかに白し」と視覚的に表現しているのに対して、【Q】では、すっかり暗くなった海から聞こえてきた鴨の声を聴覚でとらえ、その声から感じ得た情趣を「ほのかに白し」と視覚的に表現している。

③ 本文および【Q】では、とつぷりと暮れた海で鳴く鴨の姿を想像して視覚でとらえ、「ほのかに白し」と視覚的に表現しているのに対して、【P】および【R】では、しだいに暮れゆく海の暗さを払いのけるような鴨の声を聴覚でとらえ、声から想起した姿を「ほのかに白し」と視覚的に表現している。

④ 本文および【R】では、暗い海にうっすらと見える鴨の姿を視覚でとらえ、「ほのかに白し」と視覚的に表現しているのに対して、【P】および【Q】では、完全に暗くなった海の彼方から聞こえてきた鴨の声を聴覚でとらえ、声からその白い姿を想起して「ほのかに白し」と視覚的に表現している。

⑤ 本文および【P】【Q】では、暗い海の上で聞こえてきた鴨の声を聴覚でとらえ、「ほのかに白し」と視覚的に表現しているのに対して、【R】では、ほの白く暮れ残った海の彼方から聞こえてきた鴨の声を聴覚でとらえ、その声のするあたりの海の情景を「ほのかに白し」と視覚的に表現している。

問 6

「**C** 鴨の声を「白い」と色彩感覚でとらえる」とあるが、次の和歌の中で「聴覚」を「視覚」で捉えたとは考えられないものはどれか。最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は **36**。

- ① 春の色は花ともいはじ霞よりこぼれてにほふうぐひすの声 かすみ
- ② うぐひすの古巢より立つほととぎす藍よりも濃き声の色かな
- ③ 五月雨にしをれつつ鳴くほととぎす濡れ色にこそ声は聞こゆれ こすえ
- ④ 橘のにほふ梢にさみだれて山ほととぎす声かをるなり たちばな
- ⑤ 帰る雁隴月夜のなぐりとや声さへ霞む曙の空 かりおぼるづきよ かす あけぼの

問 7

筆者は俳句（俳諧の発句）の特徴をどのようなものとして論じているか。最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、**37**。

- ① 戦争体験をめぐる『朝日新聞』の論争では、俳句が言葉の制約から深い悲しみを表現できず、短歌に比べて情緒性に乏しいとする限界論が提示されたが、これは自己の主張とも合致するとしている。
- ② 芭蕉や蕪村などの句からもわかるように、俳句は客観描写に徹し主観を排除していることが特徴であり、そのことを「己の目中心の対象把握」という表現によって具体的に説明している。
- ③ 饒舌を排し「鰯雲人に告ぐべきことならず」のように数語で心情を凝縮することを特徴とし、伝達内容を抑制することで逆に深い余情を生むという俳句の本質的表現方法を説いている。
- ④ 日本語の論理構造から俳句を分析的对象把握の文学であると解釈し、「自己の視点で述べる」受容的態度により外の世界を把

握することが、西洋的な文学とは異なると指摘している。

⑤ 自然詠に特化した俳句の特性から内面描写の限界を説く一方で、「啄木鳥や落葉をいそぐ牧の木々」などの比喻表現により客体的な外在世界を分析的に描写することができると述べている。

問 8

松尾芭蕉の著した文芸作品を、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、

38。

- ① 野ざらし紀行 ② おらが春 ③ 新花摘 ④ 鶉衣^{うすうしろも} ⑤ 去来抄

(国語教育専攻の問題は、ここで終了)

（
余
白
）

（
余
白
）